

令和3年度 第1回自己評価の分析

設問項目	肯定的回答(%)			分析内容
	生徒	保護者	職員	
【設問1】 楽しい場	88	90	100	生徒・保護者・職員とも約9割が肯定的な回答しているが、昨年より生徒で4%、保護者で2%減少している。コロナ禍のために多くの行事が非公開実施や延期となっているため、無回答が生徒で4%、保護者が3%で、その分が減少したと思われる。今後も安全に配慮し、生徒のみの開催や、密を避け、距離を取っての授業や行事の実施、現在まで何度か行っている動画配信等の工夫をしながら実施し、できるだけ多くの生徒が活躍できる場を設けていく。生徒の割合は、保護者・職員よりも下回っているため、安全に配慮し、引き続き生徒指導の三つの機能（生徒に自己決定の場を与える・生徒に自己存在感を与える・共感的人間関係を育成する）をあらゆる教育活動の場に生かしながら、日々の活動での観察や教育相談等を通して、より一層の生徒理解に努めていく。
【設問2】 学校施設	92	92	83	職員が前年度から8割になっている。各施設は新しく、エアコンも設置され、新型コロナウイルス感染拡大防止のために換気しながら使用している。無回答もあるが、密を避けるための動画配信用の設備や各教室の広さ、体育館や清心館などの安全を考慮し使用人数制限等の規制があることが影響していると思われる。今後も定期的な施設点検や感染防止指導を徹底し、安全・安心な環境づくりに努めていく。
【設問3】 情報発信	84	79	86	保護者では昨年より12%下回った。HPの更新や学校だより・学級だよりの発行・情報提供などをこまめに行っているが、ほとんどの行事が生徒のみで開催や延期となっているため、直接見る機会が無いという意見や2学期の行事は公開してほしい等の意見が多数あり、直接参観できる機会が少ないためと思われる。今後は分散してのフリー参観を予定しているが、保護者や生徒に対してより充実した情報発信を引き続き心がけていく。
【設問4】 地域交流	49	49	48	生徒・保護者・職員で昨年度よりも15～19%以上下回った。コロナ禍のため、安全に配慮し、生徒のみで開催や延期となった行事の他、中止となった職場体験学習や地域交流行事等が影響したと思われる。 今後は感染防止に努めながら「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して、地域の方々との交流が深められるような取り組みを工夫していく。
【設問5】 いじめ防止	81	76	93	昨年度と比較し生徒6%・保護者8%・職員で4%下回った。無回答は5%程度あった。例年と同様にいじめアンケートや生徒の心を大切にすることをアンケート、毎学期実施している教育相談の時間を設けたが、感染防止のための手洗い・手指消毒や密集しないための配慮をしているため、複数で自由な面談が持ちにくいと思われる。 今年度は生徒会主体の「いじめゼロ集会」を動画配信と少人数での異学年交流意見交換という形での実施となったが、コロナ感染差別やいじめは絶対にあってはならないという意識を持たせる機会を持つことはできた。引き続き、教育相談、いじめアンケート、子供の心を大切にするアンケート等を継続的に実施し、いじめの早期発見・早期対応に努め、生徒の様子を見ていく。
【設問6】 わかる授業	88	78	96	生徒で6%、保護者では8%下回っている。指導要領の全面実施に伴い、評価の観点も3観点に変更になり、評価の方法が変わり、その内容がまだ浸透しきれていないと思われる。今までもPTA総会や期末三者面談で説明はしているが、今後もより丁寧な説明が必要である。また、授業での説明や、より効率的でわかりやすく「わかる授業」の展開を心がけ、学力向上をさらに進めるための授業改善や、職員研修、職員の相互授業参観を実施し、指導力の向上に努めていく。

設問項目	肯定的回答(%)			分 析 内 容
	生徒	保護者	職員	
【設問7】 誠実な 相談活動	85	81	93	肯定的な回答が昨年より保護者・職員で7%下回っている。一部生徒・保護者からは職員への強い改善要望があるが、コロナ禍における授業参観や学校行事の公開等の要望が増えている。安全に配慮した上で生徒に対しては、職員のしっかりとした人権意識と発達段階に即した確かな生徒理解が不可欠である。また、保護者に対しては、職員の接遇マナーのあり方も見直す必要がある。定期的な相談活動だけでなく、毎日の生徒や保護者との関わりを大切にして、信頼関係を築いていく。
【設問8】 生徒理解 公平な評価	80	78	96	保護者で7%下回っている。コロナ禍のため、部活動保護者会や授業参観が中止となり、保護者との情報交換や意見を聞く機会が少なかったためと思われる。今後は、分散等の工夫をしながらのフリー参観を計画したり、より一層生徒・保護者との対話を丁寧に行い、生徒理解・信頼関係づくりに努めていく。また、評価については、客観性が高く生徒・保護者が理解しやすい評価のあり方、生徒の学習意欲を高めるための評価方法の工夫が必要である。
【設問9】 教育環境	90	84	93	保護者では9%下回っているが無回答分が10%ある。コロナ感染防止の観点から体育館や清心館など特別教室の使用制限等があり、使用できていないことやフリー参観等を実施していないため無回答が増えている。 校内の掲示物については、生徒の作品や生徒の興味・関心を高めるタイムリーな内容や情報担当の職員が中心となって丁寧に作成・掲示している。今後も生徒の安全や学校生活の充実に役立つ環境整備に努めていく。
【設問10】 授業への取組 ・時間を守る	88	87	100	職員の回答は100%と検温確認や手洗いを含んだ時間確保のため登校時間を意識して生活していると感じているが、保護者では昨年より10%下回っている。家庭ではコロナ対策等を意識し、より余裕を持った時間で生活してほしいと感じていると思われる。 生徒の授業への取組は概ね良好であり、今後も望ましい学習習慣の確立を図りながら、体験的・問題解決的な学習を積極的に展開し、生徒の学習意欲と学力向上に努めていく。
【設問11】 交通ルールを 守る	92	79	86	職員は昨年より15%向上しているが、自転車による事故が数件あり、時折、地域・保護者の方々からの苦情もいただいている現状はある。今後も保護者等の協力を得て、さらに交通安全に関する指導を強化していく。
【設問12】 元気な あいさつ	86	78	83	今年度も生活委員会によるあいさつ運動、部活動でのあいさつ・礼法の指導強化などを行っている。マスク着用や大声を出すことへの抵抗を持っている生徒や保護者もいるが、今回のアンケートの中に生徒から挨拶されなかったという意見もあった。社会生活を営んでいく上で重要であるあいさつが、さらに定着して習慣化するように今後も継続的に指導していく。
【設問13】 身だしなみ	90	91	100	昨年度同様、生徒・保護者・職員とも9割を上回る結果となった。(無回答が5%程度ある) 生徒の規範意識の向上が、服装や身だしなみにあらわれている。今後も清潔感のある中学生らしい身だしなみで生活できるよう指導を継続していく。
【設問14】 清掃活動	90	84	86	保護者では10%下回っているが無回答分が10%以上ある。現在、清潔な環境を意識し、清掃活動に積極的に取り組む生徒が多い。今後もきれいな学校で学習できるように職員による率先垂範を心がけながら、生徒が公共心や勤労の精神をもって意欲的に清掃活動に取り組むように指導していく。
【設問15】 保護者の参加	78	69	93	昨年はコロナ禍のため、運動会や授業参観が中止となった。今年度は多くの行事を生徒のみではあるが実施しているので昨年より多少上回っていると思われる。また無回答も多数ある。今後は感染予防を徹底しながら分散してのフリー参観等の実施を検討している。しかし、合唱コンクールは文化会館の規定で現在座席が半数となっており、生徒と職員での実施予定のため、安全に配慮しながら合唱コンクールではビデオ販売やその他の活動や学校での様子を学校便りや学年便り、HP等で情報を提供し、できる限り開かれた学校づくりを目指した学校運営を心がけていく必要がある。